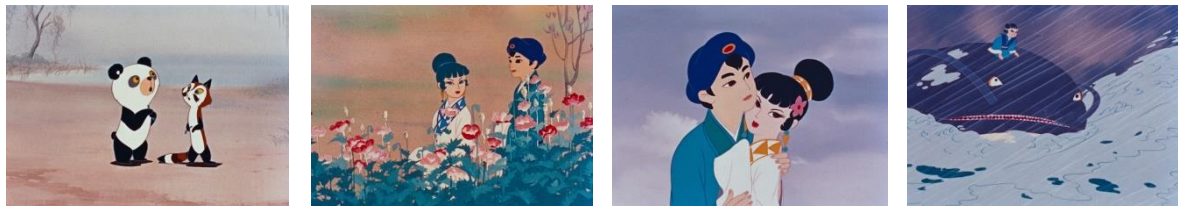


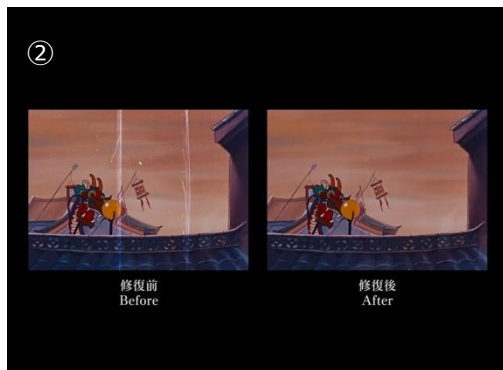
日本初の長篇カラーアニメーション映画
『白蛇伝』 [デジタル復元版]
国立映画アーカイブで4K DCP世界初上映



いつもお世話になっております。このたび、国立映画アーカイブが東映株式会社、東映アニメーション株式会社と三者共同で2018年に東映所蔵のオリジナルネガから復元を行った、日本初の長篇カラーアニメーション映画『白蛇伝』 [デジタル復元版] が、現在開催中の企画上映「逝ける映画人を偲んで2017-2018」(2019年6月29日 [土] -9月1日 [日])にて、4K DCPで世界初上映されます。

【上映日時】 7月21日 (日) 1:00PM 8月20日 (火) 3:00PM ※各回、「天までとどけ」(1979) と併映

中国に古くから伝わる伝記である、白蛇の化身・白娘(パイニャン)と恋人・許仙(シュウセン)の愛を描いた『白蛇伝』(はくじやでん)は、東映アニメーション株式会社が制作し、1958年に東映株式会社が公開。国内外で数々の賞に輝いた、日本アニメ史だけでなく日本映画史においても極めて重要な作品です。今回の共同復元では、現存するセル画等の関連資料を参照し、色彩調整、色ムラ・フリッカー(ちらつき)の除去、黒コマの修正、縦キズの除去などを行いました。可能な限り公開当時の映像美を再現して甦った本作は、第72回カンヌ国際映画祭(2019年5月14日 [火] -25日 [日])のクラシック部門(※)で正式上映され、上映後には拍手喝さいが巻き起こる、大きな盛り上がりとなりました。



※過去の名作映画の再発見や、修復された偉大な作品の紹介などを目的とする部門

★画像について
2枚ともに、左が修復前で右が修復後。
①は色彩調整前と後の比較。
②では、フィルムについての縦キズが除去されていることが分かる。

復元版の冒頭には2分の復元デモを含んでおり、やや褪色の進行したオリジナルネガから得られる映像と復元版との違いを見て取ることができます。

カンヌ国際映画祭での上映は2K DCP版でしたが、当館では、4Kスキャン・4Kデータで修復した4K DCP版を世界で初めて上映します。

復元作業に携わった当館の大傍正規主任研究員は、4K DCP上映について次のように語りました。

「東映株式会社が〈東洋のディズニー〉を目指し、国内初の本格的な動画スタジオを立ち上げて製作した『白蛇伝』の公開当時の色彩を鑑賞することのできる、またとない機会です。ぜひ、2Kの約4倍の解像度を持つ4K DCPの上映で、オリジナルのフィルムが持っている色彩豊かな、本来の映像美に触れて頂きたい。セル画の質感はもちろん、東映動画スタジオのスタッフの手仕事の痕跡まで顕わになっているのも、見所の一つです。」

「逝ける映画人を偲んで2017-2018」は、当館で2年ぶりに開かれる、日本映画の輝かしい歴史を築き、惜しまれながら逝去された映画人の方々を、それぞれの代表的作品を上映することで追悼する企画です。つきましては、ぜひとも当ニュースのご掲載をご検討いただけますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

「逝ける映画人を偲んで2017-2018」開催概要

【会期】2019年6月29日(土) - 9月1日(日) *月曜休館 【会場】国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU (2階)

【料金】一般 520円 / 高校・大学生・シニア 310円 / 小・中学生 100円 / 障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

【ホームページ】<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/yukeru201906/>

白蛇伝 [デジタル復元版] (81分・DCP・カラー)

1958(東映動画)(音)木下忠司(監)(脚)藪下泰司(原)上原信(撮)塚原幸吉、石川光明(原画)大工原章、森康二(動画)大塚康生、坂本雄作、喜多真佐武、紺野修司、中村和子、寺千賀雄、楠部大吉郎、長沼寿美子、藤井武、加藤洋子、松隈玉江、赤坂進(美)岡部一彦、橋本潔(音)池田正義、鍋木創(声)森繁久弥、宮城まり子

(デジタル復元:東映株式会社、東映アニメーション株式会社、国立映画アーカイブ、復元作業:東映ラボ・テック株式会社、東映デジタルセンター)

【取材、掲載依頼など本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ 広報

電話: 03-3561-0823 / FAX: 03-3561-0830 / E-mail: pr@nfaj.go.jp